

# ■ 2019年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

理工学部

科目

英語

## 総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

### <総論>

昨年度、問題構成が6問から4問になったが、今年度も4問であった。1.から3.の読解問題の構成は、昨年度までと変わらず、論説文2題と対話文形式の計3題。日本語の文意に合わせて、書き出し指定文字を使って単語を補充する問題が4.として出題された。

読解問題の3題については、ほぼこれまでと同様であった。設問形式、設問数については例年一定したものとは言えず、今年度は1.に記述問題が組み込まれた。これは、2年前まで独立した問題として出題されていた、文脈に合わせて単語の形を適切に変化させて記述させるものだった。2.では昨年と同様に単語の発音問題(5問)が出題された。また、3.で昨年に続いて英問英答式の記述問題が出題された(昨年度2問 今年度3問)。ただし、昨年度のような内容を自分で考え、英文を完成させるタイプは今年度は出題されなかった。英語での指示を正確に読み取って、求められている答えを正しく記述することが求められた。そのほか1.~3.では、下線部の同義語選択、空所適語(句)選択、本文の要旨を完成させる空所適語選択、語句整序、文挿入の位置の選択、内容一致文の選択など、従来からの設問形式も出題された。4.で出題された、単語を記述する問題は、語彙・語法の力を確かめるもので本学部では定番の形式。今年度は例年よりも2問少ない6問の出題であった。なお、2016年までは、5年に渡り文法・語法問題が1つの大問として出題されていた。

全体でのマークすべき解答数は、43個で、昨年度、一昨年度の51個に比べると、少なくなっているが、2.[3]の英語での選択肢がすべて長めであることや、記述問題が昨年度より増加したこともあり、全体としての分量は昨年並みとした。

### <特記事項・トピックス>

- ・ 読解問題1.の中で、英文中の単語の形を適切に変化させて記述させる問題が出題された。
- ・ 昨年度初めて出題された、英問に対する答えとして適切な内容を自分で考えて記述する問題は、今年度は出題されなかった。

### <合格への学習対策>

読解問題で扱われる素材文は、分量はそれほど多いものではないが、内容は身近な話題のものから専門的な科学分野を含む、やや難解なものまで多彩である。語彙レベルも高く、空所選択、下線部の言い換え表現の選択などで一文一文が精密に読めているかを確認しながら、内容一致、要約文の完成など論理の流れをつかんだうえで、文章を読みとる力が試されている。文法の知識、語順の規則などに裏打ちされた構造把握力を培い、パラグラフ単位で要旨をまとめながら読みとる意識をもつこと。また、対話文問題では、会話の流れをつかんだ上で、独特の口語表現や慣用表現の理解が必要となるので、対話形式の文章にも触れる機会を作り、話者の言わんとすることを正確に読み取る練習をするとよい。

昨年度、記述問題において変化があったが、今年度も若干の変更と過去に出題されていた語形変化の問題が復活した。連続して出題されている、与えられた日本語に合わせて、書き出し指定文字つきの単語を記す問題は、単語を文脈に即して使う上で、文法・語法上の知識に基づいて品詞や語形を特定し解答しなければならない。単語学習では、単に1対1の意味の対応だけではなく、発音・アクセントも含め、品詞や用法の特徴、同意語の表現、派生語にも目を向けながら、知識を多層化するような工夫をしていくこと。また、自分が述べたいことを簡単な英語で正確に表現することも意識しておきたい。

## ■ 2019年度 入試問題分析シート ■

### 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	選択・記述	読解：論説文 「科学技術の発達に伴う時間の捉え方の変化——ある考古学者の提言」(約570語) (空所適語選択・語句整序・一文の挿入箇所の選択・要旨を完成させる空所適語句選択・単語の語形を適切に変化させる記述問題)	[1]はいずれもやや難。(1)は直後の territory という名詞を修飾する語として適切なものを選ぶこと。(2)は後ろに挙げられた具体例からわかる。(3)recurring は「循環する」という意味の形容詞で直前の cyclical の持つ意味を言い換えたもの。(4)susceptible to...で「...の影響を受けやすい」という意味。直前の not に注目。 [2]undeniably unusual when viewed against the 200,000-year evolutionary history となる。選択肢の語の品詞を考慮して並べかえること。 [3]挿入文中の代名詞 that が指示する内容を特定することが肝要。 [4]要旨を完成させる問題形式は、空所の数も多く、迷わせる選択肢も含まれているが、内容一致問題として、本文中の該当箇所を照合し判断していく必要がある。語彙力もカギとなる。 [5]文脈から適切な品詞を決め、正しく記述する力が必要となる。	標準
2	選択	読解：論説文 「写真の客観性」 (約590語) (下線部の同義語(句)選択・空所適語選択・下線部が示唆する内容を選択する問題・発音問題)	[1]難しい単語も一部含まれているが、前後関係から内容をつかみ、選択肢を見比べて選択することが必要となる。take for granted は基本的な慣用表現。 [2] pass on to..., be capable of...といった基本的な連語表現の一部を問うもの、On the other hand, rather のように文同士の論理関係を示す表現を問うものが混在している。 [3]下線部が示唆する内容を選択する問題だが、各選択肢が長く誤解しやすいものも含まれている。文脈を捉え、正確に内容をつかむ読解力が必要である。 [4]発音問題は基本的な単語が多く含まれているが、昨年度より難しい印象である。	標準
3	選択・記述	読解：会話文 「生徒と教師の会話」 (下線部の慣用表現が表す内容の選択・内容一致文の選択・内容についての英問に答える記述問題)	[1]はいずれもやや馴染みの薄い慣用表現であるが、会話の流れ、内容が的確に読み取れていれば、その部分の置き換え表現として選択すればよい。cut A(人) some slack は「A(人)を大目に見る」、do the math は「計算する；計算して事の真意を探る」といった意味であるが、この問題のみ同じ意味ではないものを選ぶ設問になっていることに注意。 [2]それぞれの発言を的確に読み取り、内容に一致しない選択肢を確実に排除していくこと。 [3]設問文の英語を正確に読み取り、指示に従って答えを正確に記述することが必要。(1)は動詞 gossip / guess を現在分詞にして過去進行形で用いる。(2)はプロポーズの言葉 “Will you marry me?”(4つの単語/14文字)が正解。(3)は propose to...「...にプロポーズする」を is going to の後に置き、プロポーズする相手として Ms. Mita を答えに含める。	標準

## ■ 2019年度 入試問題分析シート ■

4	記述	語彙・語法（文意に合わせて、書き出し指定文字を使って単語を補充する問題）	日本文と照合しながら、表したい意味をつかみ、前後の表現から品詞を特定し、適切な形にしなければならない。 circulation(名詞), comments(3人称単数の動詞), toxic(形容詞), scattered(過去分詞)が難しかったのではないだろうか。	標準
---	----	--------------------------------------	--	----

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

### 出典・資料 該当する場合記入

1. Stephen E. Nash, "Is Cyclical Time the Cure to Technology's Ills?" *Sapiens*, May 11, 2018
2. Tom Wheeler, *Phototruth or Photofiction? : Ethics and Media Imagery in the Digital Age*, 2002
4. Katherine Kornei, "Life rebounded just years after the dinosaur-killing asteroid struck," *Science*, May 30, 2018